

**製品名: CD268 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM82036**

研究使用のみ

**概要**

|        |   |
|--------|---|
| 説明     | マウスモノクローナル抗体                                      |
| 宿主     | ねずみ   |
| 応用     | ELISA,FC  |
| 反応性    | 人間  |
| 標識     | 非共役   |
| 修飾     | 未修正   |
| アイソタイプ | Mouse IgG2b                                       |
| クローン性  | モノクローナル   |
| 形態     | 液体  |
| 濃度     | 1mg/ml  |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送     | 氷袋  |
| バッファー  | 0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体                       |
| 精製     | アフィニティー精製   |

**応用**

|      |                                     |
|------|-------------------------------------|
| 希釈倍率 | ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400 |
| 分子量  | 18.9kDa                             |

**抗原情報**

|              |   |
|--------------|---|
| 遺伝子名         | CD268   |
| 別名           | TNFRSF13C; BAFFR; CVID4; BAFF-R; BROMIX; prolixin |
| 遺伝子 ID       | 115650.0  |
| SwissProt ID | Q96RJ3  |
| 免疫原          | 大腸菌で発現したヒト CD268 (AA: 余分な 1-78) の精製された組み換え断片。     |

**背景**

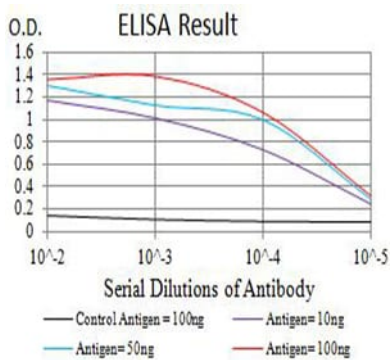
B細胞活性化因子 (BAFF) は、in vitro において B細胞の生存を促進し、末梢 B細胞集団の調節因子です。マウスにおける Baff の過剰発現は、成熟 B細胞の過形成と全身性エリテマトーデス (SLE) の症状を引き起こします。また、一部の SLE 患者では血清中の

BAFF 濃度が上昇しています。そのため、異常に高い BAFF 濃度は、自己反応性 B 細胞の生存を促進することで、自己免疫疾患の発症に寄与している可能性が示唆されています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は BAFF の受容体であり、単一の細胞外システインリッチドメインを含む III 型膜貫通タンパク質です。この受容体は、BAFF を介した成熟 B 細胞の生存に必要な主要な受容体であると考えられています。

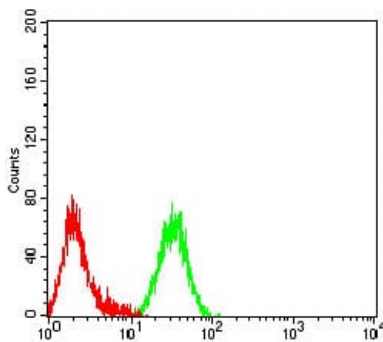
## 研究分野

TGF- $\beta$  シグナル伝達経路

## 画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



CD268 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した Raji 細胞のフローサイトメトリー分析。